

「器に合わせて」

緑のジュータン

今回の会議は会場を新潟県内水面水産試験場にて開催した。普段訪れることのない場所であるが、周りを田んぼに囲まれて清々しい風が、緑のジュータンのように敷き詰められた田んぼの上を伝えてくる。街中のアスファルトに囲まれた蒸し暑い場所とは体感温度がかなり違う。そんな印象を持つ場所だった。

水槽のサイズ

なんでも、毎年新潟県内で海外に輸出している金額で一番大きいのが錦鯉だという。それも20～30億円で40カ国になるという。ここでは稚魚から1メートルにもなるかという大きな錦鯉まで水槽に区分けされて育てられている。稚魚がこの大きなサイズになるのは何年かかるのかと質問したら、数年だという。しかし、家庭用の小さな水槽でそだてられれば、水槽のサイズに合わせてしか成長しないという。

横のつながり

さて、今回の会議で参加組織の横のつながりが起きていることが報告された。ある組織で毎回ここで提供される情報を組織内で共有していたら、部下から、報告のあった組織を訪問してみたいということで、直接訪問させていただいたという。これはまさに、この長岡経済・産業連携会議の狙いとしていることである。とにかく横のつながりを活性化させることが非常に大切なのだと、何回も語ってきた結果の現れだと感じた。非常に嬉しいことである。今後はさらに積極的なつながりをさらに広げて行って欲しいと思った。

器に合わせて

長岡の経済・産業が良い方向に動いてもらいたいと思ってこの会議を進めてきた。とにかく形式的な会議ではなく、フランクな、何でも言い合えるような会議になって欲しいと思って続けてきた。そんな思いに応えて少し効果が出てきたような気がする。うれしいことだ。錦鯉だけでなく、人も器のサイズや特徴に合わせて育ててゆくのかもしれないと感じた。

以上